

第9回名古屋大学博物館企画展記録 本に貼られた小さな美の世界 蔵書票

Record of the 9th NUM Special Display
“Ex Libris: An artistic world of fine printings within books”

櫻井龍彦 (SAKURAI Tatsuhiko)¹⁾・鈴木繁夫 (SUZUKI Shigeo)²⁾・
前野みち子 (MAENO Michiko)²⁾・辻 千春 (TSUJI Chiharu)³⁾・
西川輝昭 (NISHIKAWA Teruaki)⁴⁾

- 1) 名古屋大学大学院国際開発研究科
Graduate School of International Development, Nagoya University, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601, Japan
- 2) 名古屋大学国際言語文化研究科
Graduate School of Languages and Cultures, Nagoya University, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601, Japan
- 3) 名古屋大学博物館研究協力者
Research fellow of the Nagoya University Museum
- 4) 名古屋大学博物館
The Nagoya University Museum, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601, Japan

場所：名古屋大学博物館（古川記念館）

会期：2006年10月24日から12月23日

本記録は、第9回名古屋大学博物館企画展の展示内容を紙上で再現したものである。ただし、説明文の送り仮名や段落わけを省略するなど、幾分簡略化した。報告者の注記は鍵かっこで囲んで示す。蔵書票の図版の縮尺は一定していない。なお、本企画展の入場者数は1569名であった。

謝 辞

この企画展は、個別の作品だけで3000点をはるかに越す樋田国際蔵書票コレクションがなければ実現しないものでした。貴重な資料を多数寄贈された樋田直人氏にお礼を申し上げます。また、田尻陽一氏などからの寄贈品も展示させていただいております。ありがとうございました。

本企画展は、樋田コレクションの寄贈をきっかけにできた「名古屋大学蔵書票研究会」の、1年余にわたる勉強と研究の成果によっています。この会は、国際開発研究科と国際言語文化研究科の教員など（博物館研究協力者）が参加し、博物館の西川教授が世話役をつとめています。平成17年度総長裁量経費の援助をえて、資料の整理・登録および学術研究にとりくんで来ました。メンバーのうち、櫻井龍彦、前野みち子、鈴木繁夫、および辻 千春の各位には、解説文の執筆などで特にご尽力をいただきました。記して謝意を表します。

さらに、中国における蔵書票作家の長老、李平凡氏には、本展示のために貴重な作品をご寄贈くださったばかりでなく、メッセージもお寄せくださいました。心から礼申し上げます。

2006年10月24日
名古屋大学博物館

1. 蔵書票とはなにか

蔵書票とは、本の持ち主が、自分のものであることを示すために、表紙うらの「見返し」に貼り付けた小さな紙片です。ラテン語で Ex libris (エクス・リブリス)、英語で bookplate と言います。始まりは 15 世紀半ば、中世のドイツ。当時、書物は書き写したため希少で、貴族や修道院が権威や財富の象徴として手書きの蔵書票を付けました。まもなく、活版印刷術のおかげで、内容も体裁も全く同じ書物が多数出回るようになると、ちょうど教科書に名前を書くように、版画で作った蔵書票を本に貼りつけました。紙片といってもただの紙ではありません。書物や文化を大切に作る気持ちがこもった美しい芸術作品で、小さくて精緻なため「紙の宝石」とも呼ばれています。今では、単独の美術品としてコレクションの対象ともなっています。

2. 今回の展示品について

寄贈者の樋田直人氏は、蔵書票の収集や研究だけでなく、蔵書票に「創作篆刻」の技法を取り入れた作家としても著名です。もともと音響工学や建築工学が専門で、名古屋大学豊田講堂の音響設計も手がけました。今回の展示では、おもに樋田氏の寄贈品から、世界最古の蔵書票の一つといわれる 15 世紀の「盾を支えている天使」、18 世紀イギリスの紋章蔵書票、20 世紀初頭ドイツの蔵書票、そして現代の日本、中国、台湾の代表作品を選びすぐって紹介します。また作家別に、世紀末の耽美的画家バイロス、蔵書票の日本ひいては東洋における普及に貢献したエミール・オルリック、日本と中国の版画交流に尽くしている李平凡氏の作品も展示しています。さらに、「絵柄に込められ意味」のコーナーでは、「紙の宝石」のさまざまな意味を読み解く楽しさも味わって下さい。

3. 蔵書票の歴史

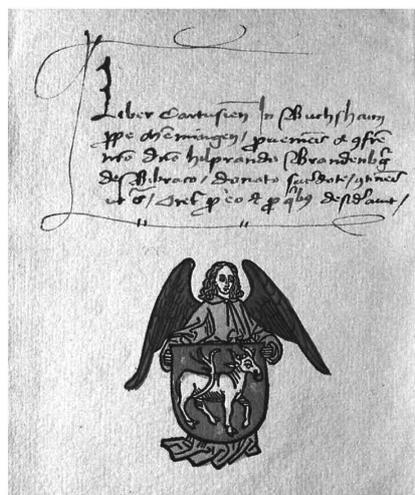
蔵書票はドイツで誕生し、ヨーロッパ各地に伝わりました。現在知られている世界最古の蔵書票は 15 世紀後半のものと推測され、「ハリネズミ」[図を省略] や「盾を支えている天使」[作品 1、図 1] がそれです。初期の図柄は「家柄」を象徴する盾の紋章が主体でしたが、次第に神話やことわざが題材となり、動物、草花、風景なども登場しました。19 世紀になるとデザインも自由で多様なものに変化し、その後半になると Ex libris という文字を入れるのが一般化しました。東洋では、書物の紙質が西洋よりも薄くて柔らかく、綴じ方も違っていたので、蔵書票ではなくて蔵書印が発達しました。

日本で絵と文字の組み合わせさせた最初の蔵書票は、1872 (明治 5) 年に設置された東京書籍館 (国会図書館の前身) のための彫刻銅版画とされます [図を省略]。世間に広く知られるのは、来日中の画家エミール・オルリックが作った蔵書票を文芸誌『明星』が 1900 (明治 33) 年に紹介してからです。版画家や愛好家によって 1943 (昭和 18) 年に設立された「日本書票協会」は、1980 年に国際書票連盟に加盟し、活発に国際交流を進めています。

作品 1 [図 1]: 「盾を支えている天使」 世界最古の蔵書票のひとつで、単色の木版画に手で色を着けた 1470 年ごろの作品 (展示品は 19 世紀の複製品)。書かれているラテン語によると、この蔵書票が貼られていた本は、ドイツのある修道院の蔵書で、修道士ヒルデブランド・ブランデンブルク修道士が持っていたもの。

作品 2 ~ 3 [図 2]: 「名古屋大学博物館蔵書票とその版」 樋田直人氏が蔵書票コレクションの寄贈を記念して、名古屋大学博物館のために 2005 年に制作した創作篆刻による作品。ラテン語 Amor et Pax は「愛と平和」。

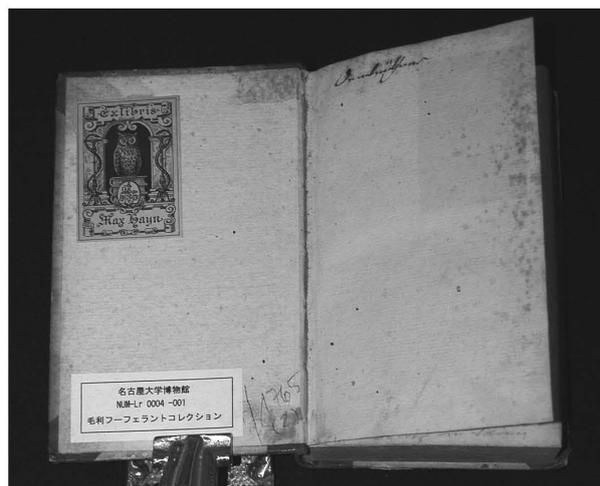
作品4 [図3]:「蔵書票はこのように使われます」 1797年に出版されたC.フーフェラントの『長生術』という本に貼られている。



1



2



3



4



5



6



7

図1～7 (説明は本文参照)

4. 蔵書票の見方

蔵書票は、票主が版画家にその制作を依頼します。版画家は票主の職業や地位、意図や趣味にあう絵柄を描きます。絵画を主体とした構図の中に Ex libris というラテン語と票主の名前を入れるのが原則ですが、近年ではそれにこだわらない傾向もあります。版画家が自分のために作った蔵書票（自票）や票主名がないのも見られます。

版画の技法が、余白に小さく記されていることがあります。C1 とか X3 というような記号です（解説パネル参照）。右の展示品 [作品 5、図 4] では、絵の下に、左から「A.P X1/5 謝順勝 2003」とメモがあります。A.P は artist's proof ないし author's proof の略号で作家保存版の意味です。X1/5 は板目木版の 5 色刷りであることを示します。謝順勝は作者名。2003 は制作年です。絵の中に HSIEH SHUN SHENG（謝順勝）とあることから、自票です。

5. 絵柄を読み解く楽しみ

何センチという小さな世界とはいえ、蔵書票の絵柄はいろいろなことを教えてくれます。票主のこと、その時代の歴史や文化、挿入された短文、票主や作家が込めた意図などを読み解く楽しみがあります。

右の展示品 [作品 6、図 5] は、ドイツのプリエステル（Annie Pliester）による 1911 年の作品で、ツルが片足をあげてその足に小石をつかんでいます。この意味は、古代ローマ帝国のプリニウス（23～79）著『博物誌』の以下の記述でわかります。「ツルは眠るとき、必ず 1 羽見張りに立つ。見張りの鶴は眠りこまないように片足で立ち、宙にあげた足で石をつかむ。うとうとして石を落とすと、その音で目覚めるからである」と。こうして、ツルは用心深さや職務への忠誠を表す鳥となりました。蔵書票のツルは、「漫然と読書をするのではなく、一冊一冊の本から用心深くその滋養を吸収せよ」という自戒を表しています。

6. 版画の技法

蔵書票には手描きもありますが、「版」にインクをつけて紙に刷るのが普通です。版作りの技法はさまざまで、国際書票連盟（FISAE）はその略記号を定めています（チラシ参照 [本報告では省略]）。蔵書票に作者が鉛筆などでこの略記号を表示することもあります。

銅版：凹版の代表。工具で版面を直接彫る方法（彫刻銅版画）と硝酸などで腐食させて間接的に彫る方法（腐食銅版画）がある。前者はドライポイントやメゾチントなど、後者はエッチングやアクアチントなど。

木版：凸版の代表で、板目木版（木材の縦方向の断面が版木）と木口木版（輪切りにした断面が版木）がある。浮世絵の伝統がある日本では、板目木版の技法が盛んだが、ヨーロッパでは木口木版が昔から主流となっている。

リノリウム版：リノリウムは亜麻仁油、石灰岩、木粉、コルク粉などの天然素材から製造され、床材などに使われる。平滑で彫りやすいので木板の代りにヨーロッパでよく利用される。

リトグラフ（石版画）：石灰質の石板を彫ったり削ったりするのではなく、脂肪性の材料で直接石面に絵柄を描き、薬液を塗って、水と油が反発し合う反応を利用して印刷。

シルクスクリーン：孔版（謄写版）の一種で、シルクやナイロン、テトロンなどを張ったスクリーンに開けた穴を通して、インクを紙に刷り込む。画像でない部分には紙やフィルムを貼ってインクが通らないようにする。

ヘリオグラビア（散粉グラビア）：写真製版による凹版印刷の一種で、アスファルトの粉末を散布した銅板に写真を焼きつけて版面をつくる。プラスチック、セロハン、金属箔などにも印刷できる。

篆刻：印鑑の技法で、一般には石材が使われる。印刀で絵や文字を残して周囲を彫る朱文印（陽刻）と反対に絵や文字を彫る白文印（陰刻）がある。蔵書印はこの方法で作成するが、樋田直人氏は絵画を主体として蔵書票に応用して「創作篆刻」を創始した。

7. 18世紀イギリスの紋章蔵書票

イギリスでは17世紀中ごろから書籍の出版点数が爆発的に増えて個人が蔵書をもつようになり、18世紀はじめには蔵書票が定着しました。しかし大陸、とくにドイツの蔵書票のような個性あるデザインはほとんど見られず、家系のなかで個人を特定する盾の紋章をそのまま採用するのが一般的でした（作品8、9 [図7, 8]）。ところが時間が経つにつれて、絵柄の個々の要素は伝統的な紋章作法に従いながら、全体としては伝統的な紋章作法からはずれた奇抜なデザインが誕生します（10, 14 [図9, 13]）。なお、ラテン語などで書かれている句は銘題（モットー）とよびます（個々の作品解説をご覧ください）。

絵柄には必ずしも常に意味があるとはいえません。Aさんを示すために鹿を5頭に猪を3頭、Bさんを示すために鹿を2頭に猪を1頭というような場合、鹿や猪自体に象徴的な意味はないのです。展示品に描かれているグリフィン（翼と上半身は鷲、下半身ライオンという伝説上の動物）や城についても同様です。

作品7 [図6]：雄鹿、王冠、騎士のヘルメット、大きな羽根飾り、そして盾紋章には犬（貂かもしれない）が描かれている。銘題“Nosce Te Ipsum”は「汝自身を知れ」という意味。

作品8 [図7]：グリフィン、王冠、そして票主 Leake Okeover (1701-1765年)の盾紋章が見られる。

Okeover家はイングランドの旧家。銘題“Contra Patriae Inimicos”は「国家の敵に逆らって」。

作品9 [図8]：グリフィン、犬、城の小塔、盾紋章の下には楽譜、ギリシア琴、ラッパ（音楽の象徴）、パレット、頭像（絵画の象徴）。銘題“Non Deficit Alter”は「他の誰にも頼らない」。

作品10 [図9]：雄鹿と月桂樹、盾紋章には三つ星とライオン。正規の紋章ではなく、蔵書者によるデザイン。銘題“Pelle Timorem”は「恐怖を追いはらえ」。

作品11 [図10]：握った両手（融和あるいは熱意の象徴）、盾紋章には山羊。紋章を本で囲むという奇抜なデザイン。銘題“Nil Conscire Sibi”は「いかなる過失も自覚していない」。

作品12 [図11]：火薬容器になった角が4つ、盾紋章内の上部には片手、中央には弾丸。これらは票主の関心あるいは職業を表している。票主 van Neck はオランダ人。

作品13 [図12]：グリフィン、王冠、盾紋章には豹とクジャク。シュロ（平和の象徴）が紋章を囲む。票主 John Wright はイギリス貴族で、Kelvedon Hall（エセックス州の豪邸）に住む。

作品14 [図13]：雄鹿、野猪、裸の片手で握る弓（目的達成の象徴）、両翼（精神的飛翔の象徴）。正規の紋章ではなく、蔵書者によるデザイン。

8. 20世紀初頭ドイツの蔵書票

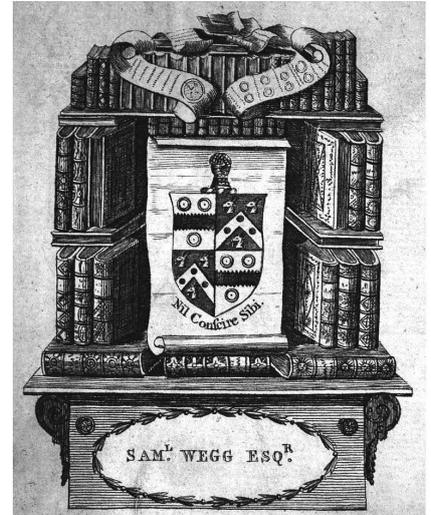
この時代の蔵書票は、制作の背景や絵柄に隠された意味を読み解く楽しみをたくさん与えてくれます。右の作品 [作品15、図14] でみてみましょう。



8



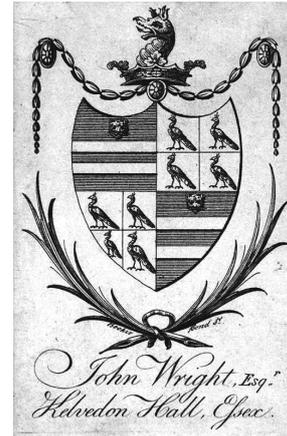
9



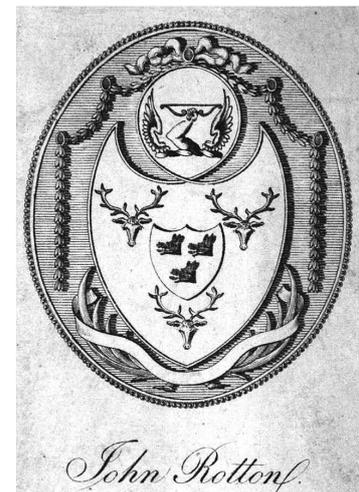
10



11



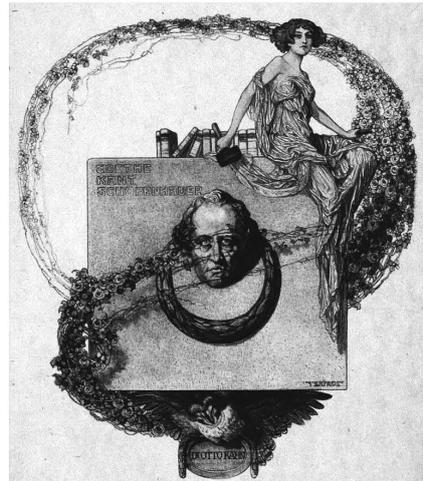
12



13



14



15



16

図 8 ~ 16 (説明は本文参照)

作家はアレクサンダー・エッケナーで、シュトゥットガルト・芸術アカデミーで教授を務めた版画家・画家です。票主リヒャルト・シュトイデルも、彼の名前の左右にあるワッペンから同郷と思われます。左のグリフィン、この蔵書票が制作された1907年当時のバーデン王家の紋章、右の馬はこの王国の中心地シュトゥットガルト市の紋章です。

上方に書かれた“Philosophia Lux Mundi”「哲学は世界の光」は、知識欲が世界に光をもたらすとの意味です。宣教師と十字架（＝キリスト教の宣教活動）が大航海時代をもたらし、大きな地球儀にコンパスを当てる人（＝実験的科学精神）を生み、書物を調べる人々の活動とともに、近代的学問の大きな進歩につながったことが示されています。上空のネコが乗る三日月は、人間がまだ知らない世界の象徴かもしれません。

作品16 [図15]：1913年バイロス（次のコーナーで紹介）作。女性が握るハンマーは、知性によって道を切り開こうとする票主の生真面目な信条を示す。壁に刻まれた哲学者の名前「ショーペンハウアー」のハウアー（hauer）＝切り開く人の言葉遊びを添えて。ただし、票主を表す頭像の真上のハンマーは、「（票主の）石頭を打ち砕け」というバイロスの皮肉かもしれない。

作品17 [図16]：1906年ローレンツ・M・ロイデ作。票主はライン河畔の結核療養所の医長E・マイセンで、開かれた書物は医学の知識を表わす。近代医学はドクロ（＝死）を克服できないが、その上方に描かれたハーケンクロイツ（＝生命力）に働きかけて生命を延ばそうとする。木々と小鳥たちも生命力を暗示している。

作品18 [図17]：1903年ハンス・プファフ作。アール・ヌーヴォーあるいはユーゲントシュティール系統のスタイル。古代めかした装いの女性が眺めているのは、右手の冊子に「ドイツ帝国のコイン」とあるから、古いコインかメダルだろう。R・ディラーという票主はコイン商らしい。銘題は「時代に奉仕する者は誠実に奉仕する」。

9. バイロスの作品

フランツ・フォン・バイロス（Franz von Bayros, 1866～1924）は、クロアチア生まれの挿絵、蔵書票作家で、侯爵を名のり、ミュンヘンやウィーンで活躍しました。彼は18世紀のロココ美術を愛好しましたが、彼が活躍した19世紀末から20世紀はじめは、ヨーロッパで花開いたアール・ヌーヴォーの時代に重なります。そのため、細密な線が生み出す甘美かつ流麗に飾り立てられた世界には、世紀末の退廃的な雰囲気漂っています。半円形のアーチ状に薔薇を描いた絵柄を好んで描きました（作品21 [図20]）。バイロスの蔵書票の魅力は、高貴で優艶、ゆううつな耽美世界にあります。世紀末の三大挿絵画家の一人として、A. ビアズレー、F. ロップスと並び称されます。

作品19 [図18]：1910年作、技法はヘリオグラフィア。

作品20 [図19]：1911年作、ヘリオグラフィア。

作品21 [図20]：1914年作、ヘリオグラフィア。

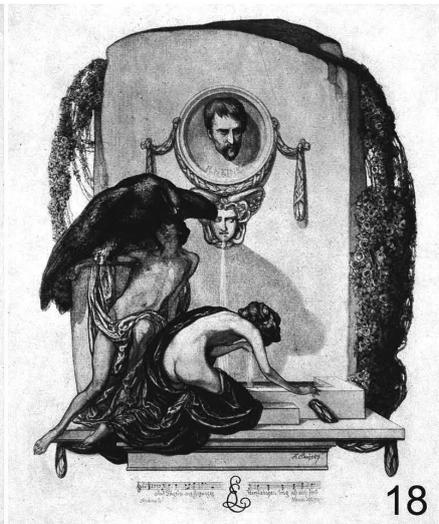
作品22 [図21]：1916年、ヘリオグラフィア。

10. エミール・オルリックの作品

エミール・オルリック（Emil Orlik, 1870～1932）は、プラハ生まれの挿絵、版画家です。画家を志して移り住んだミュンヘンで、アール・ヌーヴォーなど世紀末芸術の影響を受けました。ヨーロッ



17



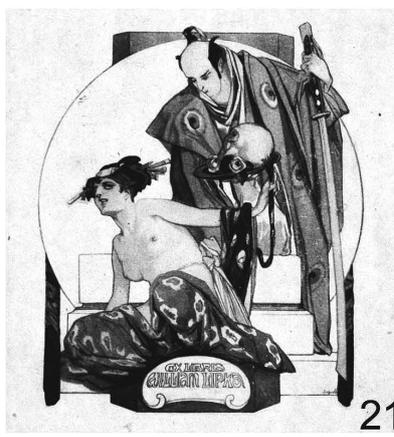
18



19



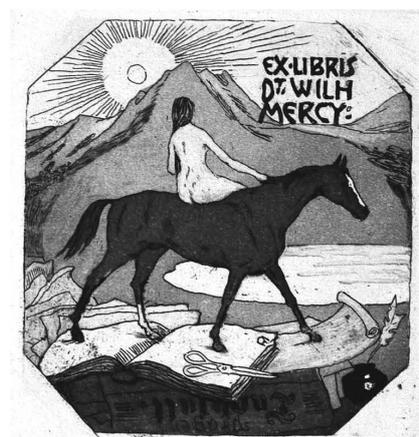
20



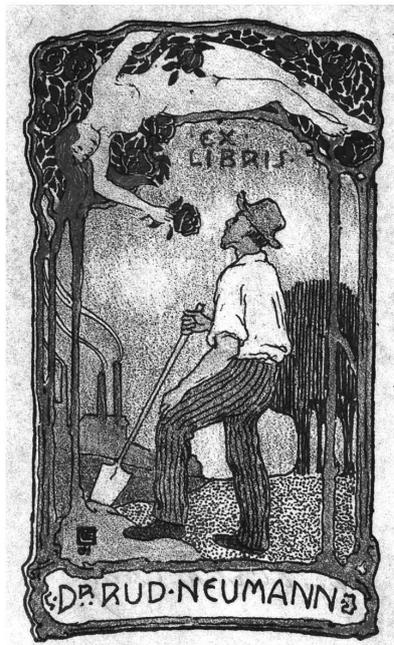
21



22



24



23



25

图 17 ~ 25 (说明は本文参照)

パ印象派が浮世絵の影響を受けていることを知り、1900（明治33）年に来日。この年、文芸誌『明星』が彼の作品4点を紹介したことで、蔵書票が日本で広く一般に知られるようになりました。オルリックは日本の版画家に石版の技法を教えるかわら、浮世絵にみられる多色刷りの板目木版の技法を学びました。帰国後に制作した蔵書票には日本の自然美や風俗が描かれることも多く、西洋におけるジャポニズム（日本趣味）の作品として鑑賞できます。

作品 23 [図 22]：『明星』に掲載した蔵書票4点の内の1つ。1897年作、リトグラフ。

作品 24 [図 23]：1901年、日本から故郷ブラハに戻って制作した作品。リトグラフ。

作品 25 [図 24]：日本旅行の成果をもとにドレスデンやウィーンで作品展を開いた時の一作品。
1902年作、エッチング。

作品 26 [図 25]：票主のマリア・ゴンベルツは、ウィーンの富豪マックス・ゴンベルツの娘。彼は、オルリックの後援者で作品のコレクターでもあった。1903年作、エッチング。

作品 27 [図 26]：「老松」と「灯籠」を配した日本的な作風の代表作。1906年制作。

作品 28 [図 27]：イニシャルを主題とする書票の代表例。1912年制作。

作品 29 [図 28]：票主はベルリンの日本美術収集家グスタフ・ヤコビで、そのイニシャルGJを組み合わせ仏教の数珠で囲んだ作品。制作年代不詳。

11. 台湾植民地時代の作品

台湾の蔵書票は、日本の植民地時代の1930年前後から日本人愛好家によって普及しました。展示品に即して簡単にご紹介しましょう。

台北帝国大学附属図書館の蔵書票（作品31 [図30]）は、初代館長田中長三郎（1885～1976）の提案で作られました。民俗学者伊能嘉矩（1867～1925）が集めた資料が寄贈された時、その多くが台湾原住民に関係するものであったことから、この図柄となりました。田中は、台湾日日新報社の社長河村徹（作品32 [図31]）などと1933年に「台湾愛書会」をつくり、同会の機関誌『愛書』には多数の蔵書票が紹介されています。また、台湾総督府殖産局に勤務した緒方吾一郎（悟郎はペンネーム）も大きな足跡を残しました（写真 [図32] は彼を票主とする台湾を描いた作者不詳の蔵書票、さらに作品33、34 [図33、34] も参照）。彼が1931年に『台湾山林会報』第69号に寄せた「蔵書票に就て」は、台湾で蔵書票について書かれた最初の文章です。

[付記：台湾蔵書票の歴史において忘れることができないのは、文学者西川満（1908～1999）である。彼は、台湾における独自文学の構築をめざした活動において、蔵書票を精力的に紹介した。さらに、旧知の友人で台湾在住の日本画家宮田弥太郎（作品32の作者）や国画会の油彩画家立石鉄臣を創作版画による蔵書票の制作にいざなった。また、自著限定本の贈呈や盛んな文学活動によって築かれた彼の幅広い交友関係により、国内外の著名作家が蔵書票の制作にたずさわった。こうして台湾における蔵書票はさらに多彩となり、台湾人愛書家をも一層魅了して、台湾における蔵書票の今日の隆盛につながったと考えられる。（辻 千春）]

作品 30 [図 29]：ホタルイカの発見者で著名な動物学者渡瀬庄三郎（1862～1929）の蔵書や論文類約6000冊が、彼の死後、当時の台北帝大理農学部動物学教室に寄贈され、「Watase Library」（渡瀬文庫）となった。本作品はその蔵書票。木版。

作品 31 [図 30]：票主の「台北帝国大学図書印」という蔵書印が押されている。1928ないし29年作、

木版。

作品 32 [図 31]：阿波人形を描く。票主河村についてはパネル参照。作家宮田弥太郎（1906～1968）は日本画家で、当時台湾に住む。1941 ないし 42 年作、木版墨線に手彩色。

作品 33 [図 33]：緒方吾一郎（パネル参照）を票主とする蔵書票、作者不詳、1925 年頃作、木版。

作品 34 [図 34]：同上、作者不詳、1931 年以前、木版。

12. 朝鮮植民地時代の作品

朝鮮植民地時代の書票については、まだ断片的にしかわかっていません。1941（昭和 16）年 10 月、京城（現在のソウル市）の三越で「蔵書票展覧会」が、書物展望社と朝鮮新聞社の主催、朝鮮総督府図書館の後援で開催されました。これには、前年に朝鮮に移住していた青森県出身の版画家佐藤米次郎（1915～2001）が尽力しました。蔵書票だけを集めた展覧会としては日本初と思われます。川上澄生や武井武雄をはじめ、日本蔵書票の草創期の多数の作家が出品しました。

蔵書票の作家、収集家として著名な小塚省治（1901～1942）も朝鮮で「小塚省治朝鮮旅行記文庫」と記された自作の書票（作品 36 [図 36]）を残し、また、朝鮮の文物を題材とした書票を堀田和義（1908～1940）のために作っています（作品 37 [図 37]）。小塚が 1933 年に著した『日本蔵書票協会 第一蔵票集』に掲載された会員 43 名のうち、朝鮮在住者は 11 名にのぼり、注目されます。

[付記：1941 年の三越における「蔵書票展覧会」は、著名な蔵書票研究家である齊藤昌三が日本の蔵書票を世界に紹介するために同年発行した『Bookplates in Japan』（明治書房刊）の出版記念を兼ねていた。10 月 16 日から 4 日間の日程で、斎藤自身が展示準備のために東京から駆けつけ、初日夕刻には京城中央放送局から蔵書票について放送した。彼は、蔵書票のみの展覧会として日本初の、統一された理想的な催しと評している。目録によれば、『Bookplates in Japan』掲載作品 50 点のほか、日本の著名版画家による 193 点、斎藤所蔵の日本の古蔵票や欧米の蔵書票 70 点、中国版画会員の作品 10 点など総計 320 点余が展示された。（辻 千春）]

作品 35 [図 35]：票主は片山義雄。「天下大將軍」「天下女將軍」のチャンスン（神像）と朝鮮の女性が描かれている。『日本蔵書票協会 第一蔵票集』（1933 年刊）より。

作品 36 [図 36]：「小塚省治朝鮮旅行記文庫」と書いてある自票。

作品 37 [図 37]：1935 年に小塚省治が堀田和義のために作成。ハンゲルは「堀田和義親書」と読める。

作品 38 [図 38]：票主は小塚省治。作者不詳。

13. 現代中国の作家たち

中国では、蔵書票は清末から中華民国初期に使われはじめました（中華民国は 1912 年元旦に成立）。1910 年ごろに出版された『京張鐵路撮影』という本（北京の国家図書館蔵）の扉に、出版後まもなく貼られたと思われる蔵書票があります（写真 [図 39]）。中国初の米国留学生として Ronselaer 工芸大学を卒業した関祖章のもので、いまのところこれが中国で最初の蔵書票とされています。また 1916 年、上海にあったキリスト教系の大学が卒業記念の蔵書票を出しています。

1934 年に李樺が創設した「現代版画会」が、翌年出版した機関誌『現代版画』第 9 集が書票特集を組んでいて、そこには「木刻運動」（創作版画運動）を進めた魯迅が収集した蔵書票がのっています。当時の蔵書票の作家には、李樺のほか、頼少其、唐英偉らがいます。その後、戦争と戦後の混乱で活動が中断しましたが、1984 年に「中国蔵書票研究会」（初代理事長、梁棟）が成立し、翌年には北京で「中



26



27



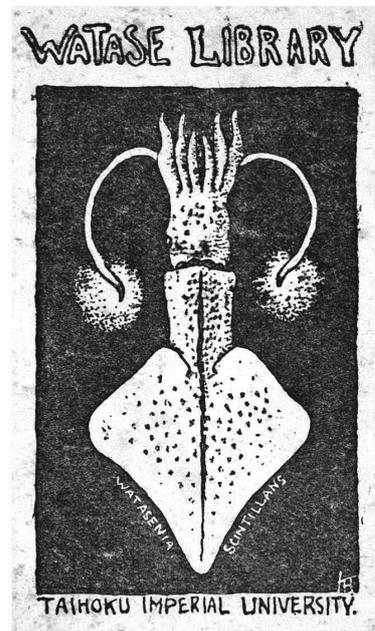
28



30



31



29



33

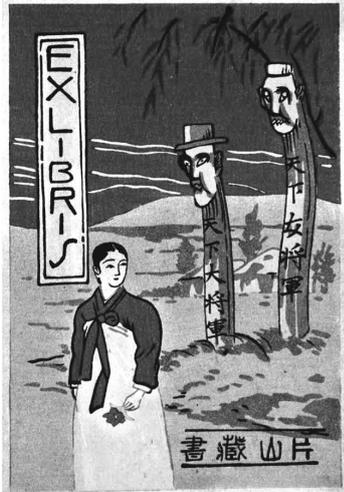


34



32

図 26 ~ 34 (説明は本文参照)



35



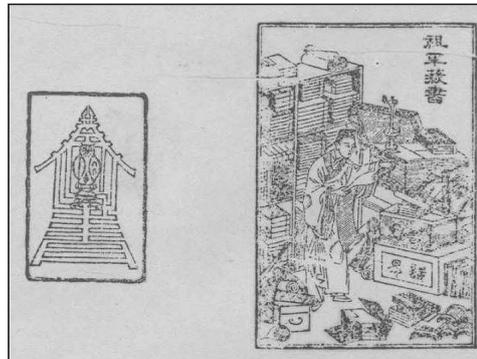
36



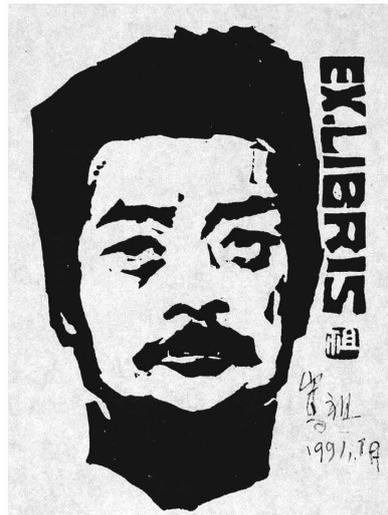
37



38



39



40



42



41



43

図 35 ~ 43 (説明は本文参照)

日版画蔵書票展」が開催されました。以来、今日まで日中の友好交流が続いています。

作品 39 [図 40]：1991 年に張蒿祖（華東師範大学芸術系教授）が魯迅を題材として制作、木版。

作品 40 [図 41]：1992 年に王昱泉（1938～1994）が今村秀太郎（もと日本書票協会会長、古美術商）のために制作。王は、四川省隣水県生まれで、中国蔵書票研究会常務理事を務めた。

作品 41 [図 42]：作家は陳雅丹。1942 年、浙江省新昌生まれ。中国蔵書票研究会秘書長、清華大学美術学院教授。

作品 42 [図 43]：郁田による自票。1943 年、福建省霞浦生まれ。蔵書票作家であり、著名な収集家でもある。記されている「不可一日無此君」とは、晋の王子猷が竹を愛して「君」と称した故事にちなみ、「この書物なしでは一日も過ごせない」という意味。

作品 43 [図 44]：李平凡作（次のコーナーへ）

14. 李平凡の世界

李平凡氏は 1922 年に中国天津に生まれた画家、版画家。1939 年頃から蔵書票をつくりはじめました。初期には魯迅の創作版画運動の影響を受け、社会の暗部を暴露するものを多く制作しました。1943 年に神戸の中華同文学校に美術教師として来日し、授業に蔵書票の制作をとり入れるなど華僑生徒の間に版画を広めました。1950 年に帰国するまで、版画家の川西英（1894～1965、作品 45 [図 46]）や前川千帆（1888～1960）らと親しく交際しました。1984 年、梁棟、郁鵬らと共に「中国版画蔵書票研究会」を設立。同年、中国の蔵書票を「日本書票協会」に寄贈したことが縁で日本の蔵書票愛好家たちとの交流がはじまりました。以後、日本を頻繁に訪れ、日中の版画交流に多大な貢献をしています。人類の未来への希望を託して、「子ども」をモチーフにした作品が多いのが特徴です。

「祝辞とその訳文」[訳文のみを掲げる]

日本名古屋大学博物館御中

私の長年の友人である樋田直人博士が、珍藏されてきた古今の蔵書票作品をこのたび名古屋大学博物館に寄贈されたと聞き及び、大変うれしく思います。樋田博士は日本の著名な蔵書票研究者であり収集家でもあり、研究論文も多数発表されております。このたびの寄贈は蔵書票芸術の国際交流を推進する上で大きな意義をもつものとして慶賀に値します。

今回の企画展の成功をお祈りし、樋田博士のご健勝を祈念いたします。

李平凡 北京より

作品 44 [図 45]：1943 年作。票主「紀子」は鈴木紀子で、蔵書票作家の鈴木準中（1919～1987、上海生まれ）の夫人。

作品 45 [図 46]：1943 年作。川西英の娘さんのために作った作品で、肖像のモデルも彼女と思われる。

作品 46 [図 47]：1998 年作。香港返還 1 周年と第 7 回中国蔵書展を記念した自票。

作品 47 [図 48]：1990 年作。樋田直人氏に 1992 年に贈られたもの。

15. 日本の作家たち

作品 48 [図 49]：竹久夢二（1884～1934、岡山県生まれ）作、斎藤昌三『日本之古蔵票』（1946 年刊）より。



44



45



47



46



48



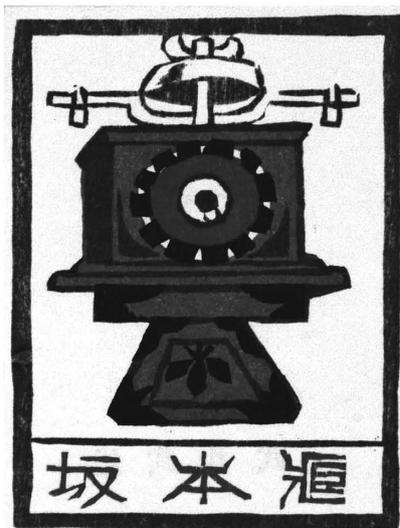
50



49



52



53



51

图 44 ~ 53 (说明は本文参照)



54



55



56



57



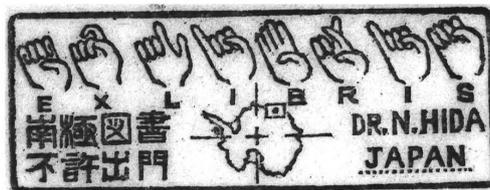
58



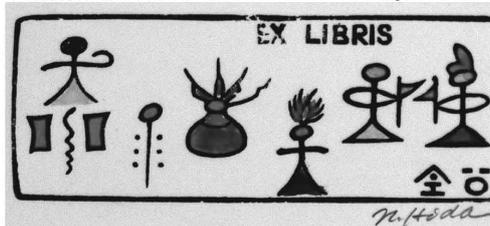
62



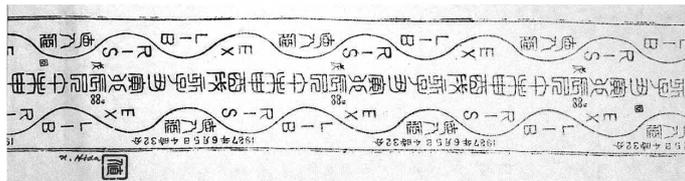
61



59



60



63

图 54 ~ 63 (说明は本文参照)

- 作品 49 [図 50] : 棟方志功 (1903 ~ 1975、青森県生まれ) 作、票主は堀田和義。
 作品 50 [図 51] : 芹沢銈介 (1895 ~ 1984、静岡県生まれ) 作、票主は富山静男。
 作品 51-52 [図 52-53] : 武井武雄 (1894 ~ 1983、長野県生まれ) 作。
 作品 53 [図 54] : 川上澄生 (1895 ~ 1972、神奈川県生まれ) 作、票主は坂本一敏、板目木版に手彩色。
 作品 54 [図 55] : 川上作、板目木版に手彩色。
 作品 55 [図 56] : 川上作、票主は黒船屋 (坂本一敏のこと)、板目木版に手彩色。

16. 樋田直人の作品

樋田直人

1926年、北海道生まれ。日本書票作家クラブの初代会長。篆刻の技法を蔵書票に生かした作品多数を制作するほか、『蔵書票の美』、『蔵書票の芸術』、『蔵書票の魅力』をはじめ関係著作多数。(展示品の解説には、樋田氏の各種著作を参考にした。)

- 作品 56 [図 57] : 1987年作。作者の出身校北大の時計台を描く自票。
 作品 57 [図 58] : 1986年作。票主は狐狸庵先生こと遠藤周作。
 作品 58 [図 59] : 1958年作。南極がいかなる国の領土権も及ばない唯一の大陸であることにちなみ、国際的な指文字のアルファベットを使用した自票。
 作品 59 [図 60] : 1996年作。中国雲南省の納西族のトンパ絵文字で「我々は24時間いつまでも納西族の東巴巫師(この文字を使う僧侶階級)を愛する」、右下はトンパの音標文字で「hy」「da」(=樋田)とあるので自票。
 作品 60 [図 61] : 1993年作。駐日英国大使館商務参事官として16年間をすごした票主ポール・ダイヤモンド氏が、オランダへの転勤に際して樋田氏に制作を依頼。日英国旗の下、商活動の象徴ソロバン、産業を表す歯車、商行為の公平を示す天秤、次の任地オランダの象徴である跳ね橋などで「盾紋章」を構成し、その両側にアジアを示す二頭のトラを配するなど、票主の職歴と未来を表現。ソロバンの白玉には、ダイヤモンド氏が日本を離れる1993(年)12(月)という数字が隠されている。
 作品 61 [図 62] : 1982年作。票主は内田市五郎。フクロウの顔に「内」、本箱に「田」が隠されている。
 作品 62-63 [図 63] : 無限長蔵書票「輪廻」とその版 [省略]。永久の時の流れのなかで、人生は瞬間である。このことを、1987年6月5日4時32分(1から9までの数字をすべて使用)に、作者がこの世に確かに存在していたという事実で表現した。版がローラーになっており、無限に刷ることができる。1988年作。

17. 現代台湾の作家たち

- 作品 64 [図 64] : 1998年作、シルクスクリーン。作者蔡銘山は1962年生まれ。台湾年画愛好会創立者の一人。
 作品 65 [図 65] : 2002年作。作家呉望如は1962年生まれ。台北県三重市五華国立小学校の教務主任で、台湾蔵書票協会秘書長も務める。
 作品 66 [図 66] : 「光明正義」、1998年作、板目木版。作者潘元石は、1936年台南生まれで、同市の奇美博物館館長。
 作品 67 [図 67] : 1995年作、木版。作者楊永智は1955年、新竹生まれ。東海大学中国文学系助教。

18. 著名文化人の蔵書票

作品 68 [図 68]：票主は永六輔、作家は末廣吉成、孔版 5 色刷。

作品 69 [図 69]：票主は丹羽文雄、作家は井上勝江（作品 73 まで同様）。

作品 70 [図 70]：票主は水上勉。

作品 71 [図 71]：票主は永井路子。

作品 72 [図 72]：票主は河竹登志夫

作品 73 [図 73]：票主は檜山文枝

19. 絵柄に込められた意味—1 フクロウ

中世キリスト教世界では、フクロウはサタン（悪魔）にかかわる鳥とされたため、初期の蔵書票にはほとんど登場しませんでした。古典文化の復興（ルネサンス）が定着する 16 世紀になると、フクロウは知恵、学問、芸術にかかわる女神アテナ（ローマのミネルヴァ）の従者であることから、書物そのものに深い関係のある神聖な鳥として蔵書票に登場するようになります。日本にこのイメージが伝わったのは、明治以降です。そのもとになったのが、明治 33 年に文芸誌『明星』に紹介されたオルリックの「フクロウの蔵書票」（作品 23 [図 22]）です。

作品 74 [図 74] の票主は医学博士（MUDr.）で、書籍の表に描かれた杖にからんだ蛇はギリシア神話に登場する医学の神アスクレーピオスにちなんで医学を表します。ドクロが示す「死」は避けられないが、これに対してフクロウと書籍の示す知性（＝医学）が「生」の延長を目指すのだ、との強い意志がうかがえます。

作品 74 [図 74]、作品 75 [図 75]、作品 76 [図 76]、作品 77 [図 77]

作品 78 [図 78]：票主は樋田直人、作家は大内香峰（1940 年、北海道生まれ）。

20. 絵柄に込められた意味—2 ドクロ・骸骨

中世キリスト教世界では、地上の肉体は必ず滅びるが魂は永遠であることを教えるために「死を想え」（メメント・モリ）という言葉がよく使われました。このとき、骸骨やドクロは「死」を表す図像として中世末からしばしば描かれました。死者が地上の快樂を求める人間を不意に襲い、音楽を奏でながら自分たちのダンスの輪のなかに引き込む「死の舞踏」の壁画がヨーロッパ中で描かれ、印刷本としても流布したのもこの頃です（作品 81 [図 81]）。16、17 世紀には、静物画の中にもドクロが登場して、地上の人間の行いをすべて虚飾（ヴァニタス）と見なす思想を広めました。展示品は、19 世紀末から 20 世紀に、中産市民のために制作された蔵書票ですが、その骸骨やドクロはかつての意味を継承した上で、近代的な新しい解釈が付け加えられています。

作品 79 [図 79]：現代的な衣服をまとった女性と男性は現代のアダムとイヴで、知恵の実（ここには描かれていないが蔵書票＝本）を求めても、死すべき運命からは逃れられない、という内容を少しコミカルに暗示。

作品 80 [図 80]：描かれているのは「道化」で、人生の愚かしさ＝虚飾（ヴァニタス）を認識させる存在。読書という人間の知的営みも、やはり地上の営みであってヴァニタスにすぎない、という教訓が隠されている。

作品 81 [図 81]：死の舞踏」の絵柄で、人間の地上の営みはいつ死を迎えるか分からない脆いもの



65



64



66



67



68



69



72

73



70



71

図 65～73 (説明は本文参照)



74



75



76



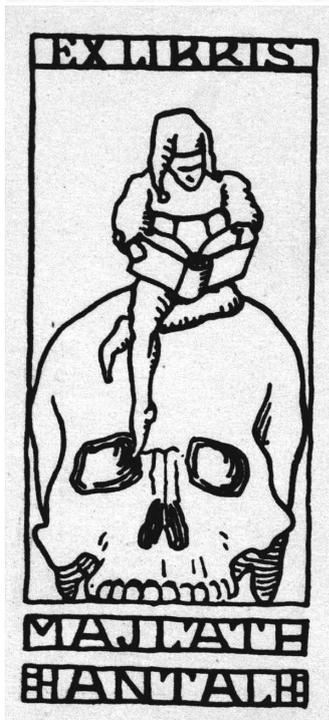
77



78



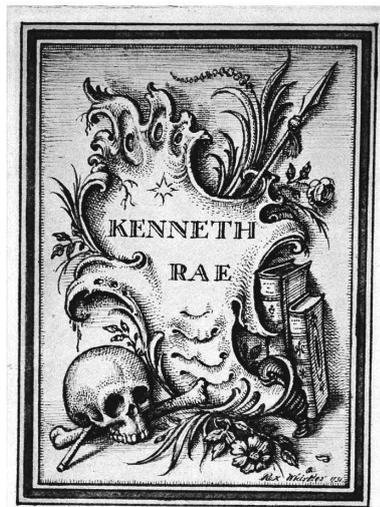
79



80



81



82

图 74 ~ 82 (说明は本文参照)

だ、と教えている。

作品 82 [図 82]：骨をくわえた骸骨は死を表わす。草花も、美しいもの—生命力に満ちたもの—も必ず滅びるといふ「虚飾」の教えを示す。鎧 (=社会的成功) にも本 (=人間の知的な営み) にも、いずれ「死」が訪れるのだ。

作品 83 [図 83]：ラテン語銘題は、「キリスト教徒 (クリスチャン) の武器は平和なり」。右上のハトは平和の象徴、左下のつがいのハトは愛を暗示し、その上の羊 (十字架の旗を持つ) はキリストを指す。紋章の楯はおそらく武器をあらわす。つまり、この裸婦は、愛という武器によって平和をもたらす女神で、ドクロの上に座ることで「死」を克服している。

作品 84 [図 84]：毒物 (TOXICISQUE) は死 (ドクロ) にも生 (治療) にも使われる紙一重のもので、天秤の一方はそれを悪用あるいは誤用した場合の死を、もう一方の本を読んでいる男性は人間の知性 = 生への利用 (善用) を表している。天秤が少しだけ男性に傾き、また右横の騎馬像が竜 (毒牙を持ち、悪魔 = 死の象徴) を退治しているので、神の加護を受けた人間知性が毒 = 悪魔 (死) を制する、という意味になる。

21. 絵柄に込められた意味—3 ヘビ

西洋ではヘビはいろいろの意味を持っています。聖書では蛇はサタン (悪魔) も意味しますが、同時に賢明の象徴でもあります。古代ギリシアの医術の神アスクレーピオスの杖やヘルメス神の杖に 2 匹のヘビがからまりついています。このヘビは治癒やよみがえりを示すものです。賢明と治癒とのかかわりから、ヘビは医者や医学界の蔵書票に多く取り入れられています。蔵書票史のなかでは、「からみヘビ」の意匠はとくに 17、18 世紀に流行しました。なお、自分の尾を噛んで輪になっているヘビ「ウロボロス」は、循環、再生、無限のシンボルです。

作品 85 [図 85]、作品 86 [図 86]、作品 87 [図 87]

22. 絵柄に込められた意味—4 守護聖人

聖ゲオルギウス (作品 88 ~ 91 [図 88 ~ 91])

龍は悪と異境の象徴であり、英雄聖ゲオルギウスが龍を刺し殺して退治します。13 世紀以降の西ヨーロッパでは、甲冑姿で馬に乗り、足下でドラゴンを槍で突き刺す場面が礼拝像として好まれました。

聖クリストフォルス (作品 92 [図 92])

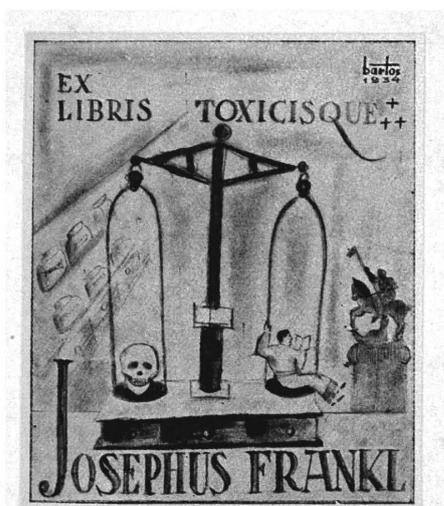
キリストに仕えるべく改心し、貧者や弱者を背負って川を渡る仕事に専念していたのがこの守護聖人です。シュロの幹を杖に、小柄の子供を背負って渡っていると、一歩ごとに子供は重くなります。子供は自分がキリストであることを打ち明け、今クリストフォルスが背負っているのは全世界の重さであると教えたといわれています。

聖ロクス (作品 93 [図 93])

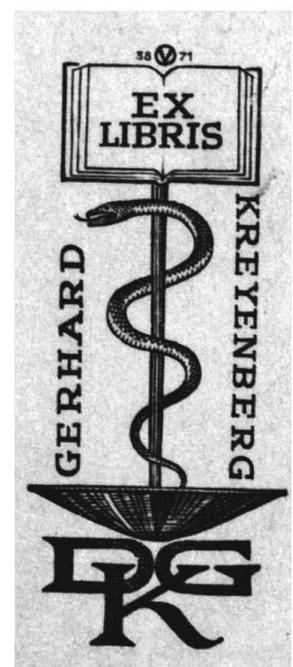
ペスト患者の守護聖人。衣のすそをたくしあげてペストの兆候である黒斑を見せています。ヘビがからむ杖は治癒の象徴。ローマに巡礼したので、巡礼杖があり、杖にはお布施を受け取る袋がついています。犬は巡礼時のお供で、パンをくわえているのは死線をさまよった聖人を介護したことをあらわしています。



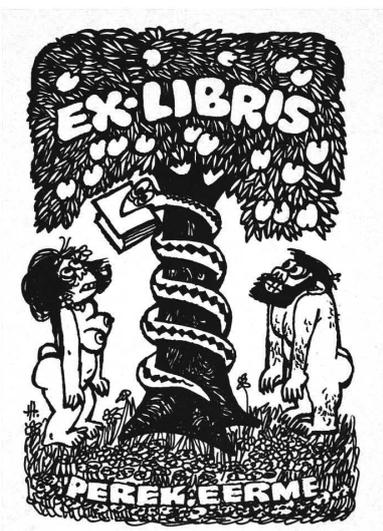
83



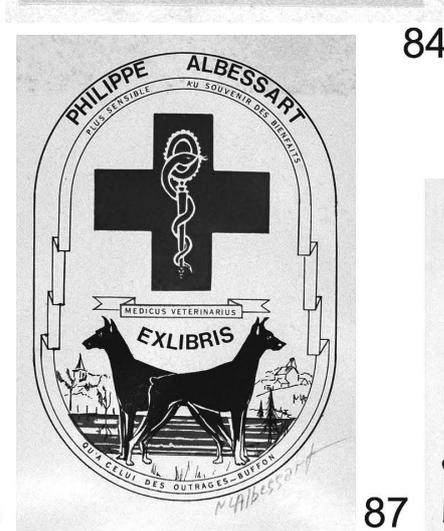
84



85



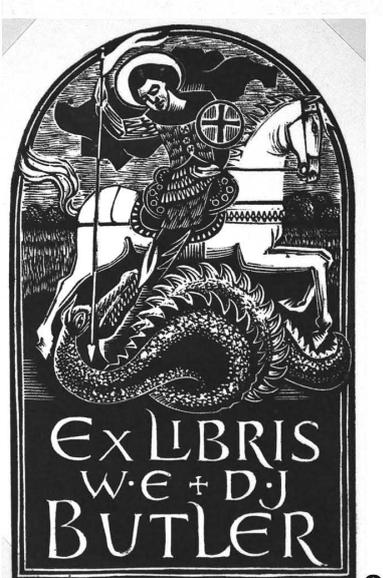
86



87



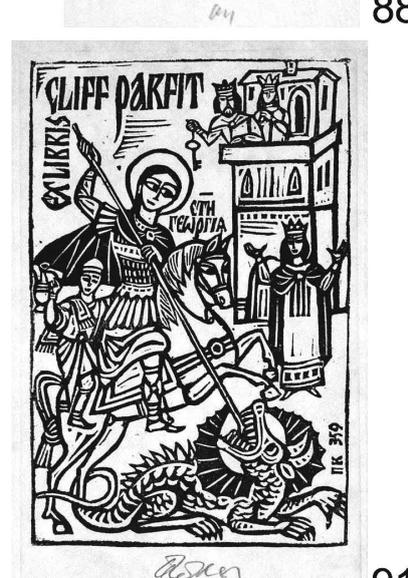
88



89



90



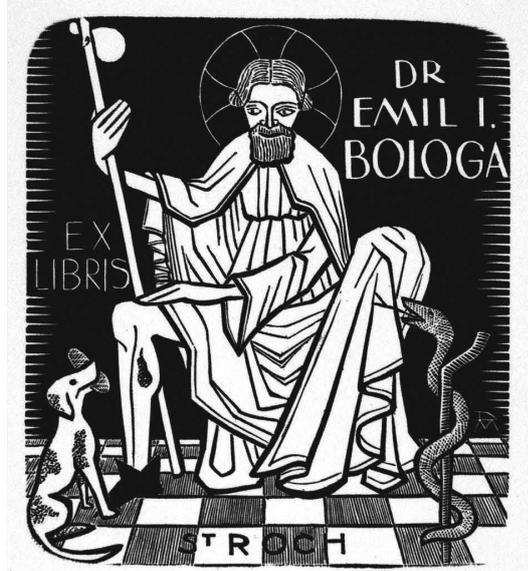
91

図 83 ~ 91 (説明は本文参照)

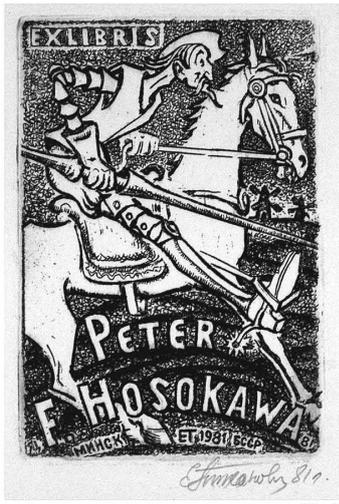


DEG · JAHRESVERSAMMLUNG · 1983 IN KRONACH

92



93



Emilio 8/19

94



mlen

95



55/60

P. Lipitz 1981

96



3/58

Fellipe

97



吞春方亭藏

98



A.P.

5/8

徐岩村 2005

99

図 92 ~ 97 (説明は本文参照)

23. 絵柄に込められた意味—5 ドン・キホーテ

セルバンテスによる17世紀はじめの小説の主人公。騎士道精神のパロディとして、好んで蔵書票の題材となっています。図柄は、痩せこけた馬にまたがり、サンチョ・パンサをお供に遍歴の旅に出かける、おなじみの姿が一般的です。

作品94～97 [図94～97]：票主はペテロ・細川。

作品98 [図98]：票主の呑喜方亭（ドンキホーテ）は関根烝治のこと、小島恵次郎作、1989年、型染4色刷。

作品99 [図99]：票主は関根烝治、作家は台湾の陳啓村、2005年作、板目木版8色刷り

24. ハンズオンコーナー「蔵書票に挑戦！」[図100]

ステンシル（型染め）で、オリジナル蔵書票を作ってみよう！（1）好きなステンシル型を選ぶ、（2）紙の上に型を置き、上からインクパットでたたき、（3）いろいろな絵柄の「はんこ」もあるので、さらに押しでもステキにできます、（4）最後に名前を入れて完成。つぎの人のためにステンシル型はふいておきましょう。洋服などに付くと汚れますので、気をつけましょう。

25. 「意匠文化データベース」検索コーナー

名古屋大学博物館が所蔵する「中国年画」約800点と「蔵書票」約400点が検索できます。近日中に当博物館ホームページでも公開します [http://nenga.num.nagoya-u.ac.jp/ で公開中]。このデータベースは平成17年度総長裁量経費、平成18年度科学研究費補助金の助成をうけて制作しています。



図100 ハンズオンコーナー「蔵書票に挑戦！」



図101 ポスター

26. 人気投票コーナー（投票箱）

一番好きな作品番号を投票してください。2週間ごとに結果を公表します。[総計 507 票が投じられたが、結果は省略]

関連講演会とコンサート

(第 63 ～ 66 回博物館特別講演会：博物館講義室において)

「蔵書票入門：歴史から楽しみ方まで」

講師：櫻井龍彦（名古屋大学大学院国際開発研究科 教授）

日時：11 月 8 日（水）午後 3 時～ 4 時 30 分

「李平凡と日中版画交流— 1940 ～ 50 年代を中心に—」

講師：張 玉玲（南山大学 非常勤講師）

日時：11 月 17 日（金）午後 3 時～ 4 時 30 分

「書物と髑髏」

講師：前野みち子（名古屋大学大学院国際言語文化研究科 教授）

日時：11 月 25 日（土）午後 1 時 30 分～ 3 時

「蔵書票の図像文化学（アイコンロジー）」

講師：鈴木繁夫（名古屋大学大学院国際言語文化研究科 教授）

日時：12 月 19 日（火）午後 3 時～ 4 時 30 分

(第 17 回 NUMCo 博物館コンサート：博物館展示室において)

アイルランド音楽へのいざない

演奏者：小松 大（アイリッシュフィドル）、長谷川彰子（チェロ）

日時：2006 年 12 月 19 日（土）午後 1 時 30 分から 3 時

さがしてみよう かんがえてみよう

第9回名古屋大学博物館企画展
本に貼られた小さな美の世界
蔵書票



物を集める:コレクション

小学生のあいだでは、ムシキングや

ラブ&ベリーが流行っているらしいけど、

大人も何かを集めるのが大好きです。

きみも なにかを あつめている？

おとうさん、おかあさんは

なにを あつめている？

博物館の仕事は、物を集めたり、大切に
とっておいたり、それを整理したり、
調べたり、そして みんなに見てもらっ
たりすることです。

今回は名古屋大学博物館が持っている
「蔵書票」をみんなに見てもらいます。



蔵書票？

それなに??

蔵書票は本にはる「名札」です。

昔は本が今より もっと大切にされて
いたので、だれの本か わかるように、
紙に自分の名前をかいた「名札」を
はりました。

今でも、自分の本に蔵書票をはって
いる人もいます。

でも、でも、

ここに かざってある

名札(蔵書票)は、
本に はってないよねー



もともとは名札ですが、

だんだん、ほかの人の

蔵書票も集めて楽しむ人が増えまし
た。いろんな人のプリクラを集めるよう
にネ。

だから交換会もあるんだよ!!

大人って

いろいろな物を
あつめるんだねー



蔵書票の

フクロウは

ぜんぶで、何匹

飾ってある？

絵を見て

かぞえてみよう!



ふくろうは、
知恵の神様の
使いなんだ



「がいこつ」や「ヘビ」
もあるよ
さがしてみよう



どの蔵書票が

一ばんすきかな？

一ばんすきな作品の

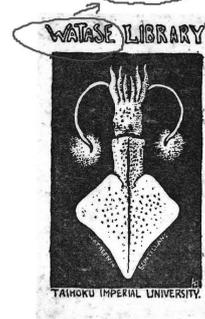
ばんごうを かいて

「どうひょう」しよう!

蔵書票には、自分の名前のほかに、
職業や、その人の好きな物、考えか
たなどを書きます。

そして、版画によって、同じ物が何枚も
作られます。

持ち主は「わたせ」さん



この人は「ホテルイカ」を
発見した人なので、

ホテルイカがデザインされています
挑戦コーナーで、蔵書票を作ろう!

2006年10月24日作製

図 102 小学生向けの展示解説パンフレット (野崎ますみ作成)